人のいる風景 people

田邉 雄一さん

たなべ・ゆういち

オリンピック聖火ランナーに選ばれた元自衛官の思い

「復興への思いと平和への願いを聖火に。」

3月26日に福島県から日本全国を回る東京2020オリンピック聖火リレー。北海道は6月14、15日に実施され、千歳は15日に通過予定です。「Hope Lights Our Way／希望の道を、つなごう。」をコンセプトに全国では、約1万人の聖火ランナーが走る予定です。2月7日には、北海道実行委員会が選考した候補者46人が発表されました。応募者数は3208人、倍率は約80倍。その中で千歳から唯一選ばれた田邉雄一さんに聖火リレーへの意気込みをお聞きしました。

●当選の連絡がきた時の気持ちは

「12月中旬、携帯電話に着信があり、折り返しの電話をしたところ、実行委員会から聖火ランナー内定の連絡でした。その時は嬉しくて、自分が何を話したかを覚えていないくらい興奮しました。体の中で燃えたぎるものが生まれ、もの凄いエネルギーをいただいたように思います。」

●スポーツとの関わりは

「中学卒業後、陸上自衛隊少年工科学校に入校し、17歳のときに全日本ジュニアレーシングカヌー大会で2位になりました。そのときのコーチが1964年の東京オリンピックに出場した方だったこともあり、自分自身も選手としてオリンピックに出たいと思ったこともありました。その後、千歳に来てからは、職場の野球チームで全国大会出場や少年野球の指導、カヌー競技指導者としての経験を生かし、市の体育指導委員として地域スポーツに関わってきました。その中で、人と人がつながり、楽しみながら健康づくりを行う《遊びとしてのスポーツ》をめざし、活動してきました。」

●聖火リレーに懸ける思いは

「元自衛官の立場上、災害からの《復興の火》という思いを、つなぎたいです。平成23年3月11日の東日本大震災、平成30年9月6日の胆振東部地震。両方とも私が所属していた陸上自衛隊第7特科連隊の後輩や仲間が支援に行っています。被災した隊員家族もいると聞いています。私は、そのときは退職していたので、被災地には行けていませんが、当時、現場で黙々と任務にあたっていた彼らの事を思うと頼もしく、感謝の気持ちでいっぱいです。千歳市代表として、彼らの思いや、地域の皆さんの思いを受け継ぐ聖火ランナーになりたいですね。3月26日に福島から聖火リレーがスタートしますが、その前に3月20日から東北で《復興の火》が展示されますので、その場面も見に行こうと思っています。私が走るときは、復興への思いと平和への願いを聖火にこめて、走ります。」

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

聖火リレー当日は、学生時代の友人、自衛隊の仲間が全国から応援に駆けつけるそうです。復興の火と、皆さんの期待を胸に走る田邉さんの姿が今から楽しみです。

■聖火リレー当日に履く予定のシューズと先輩からプレゼントされたマスコットを手に持ち、本番を楽しみに待つ田邉さん。

プロフィール

■ 田邉 雄一（たなべ ゆういち）さん／66歳／大和在住／元自衛官、有珠山噴火に伴う災害派遣活動に2度参加／昭和63年から平成8年まで千歳市体育指導委員／平成22年から千歳地区高知県人会会長／平成27年に危険業務従事者として「瑞宝双光章」を受章